共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

第１９５７号
２０２０年８月２３日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

日本共産党国会議員団

紙参議、畠山前衆議が根室で調査活動

日本共産党の紙智子参議院議員と畠山和也前衆議院議員が 19 日根室入りし、領土問題や漁業問題などについて調査活動を行いました。橋本竜一、鈴木一彦両市議が同行しました。

千島歯舞居住者連盟

千島会館では連盟の河田副理事長、宮谷内根室支部長からお話を伺いました。

河田氏は、「コロナの影響で四島への墓参や自由訪問、ビザなし交流が自粛されている。早く収まって、来年今まで以上に訪問事業ができれば」と述べました。

宮谷内氏も、「現状をみれば今年は難しいと思う。ただ、来年以降もずるずると引きずってしまうことを懸念している。平均年齢85歳を超えた元島民は、墓参などに行けることを励みに返還運動を続けている。モチベーションが下がってしまうのでは」と述べました。

また、お二人からは、自由訪問の人数を拡大してほしいという切実な要望をお聞きしました。宮谷内氏は「領土問題を語り継ぐためにも3世（孫世代）にまで拡大してほしい」、河田氏も「百聞は一見に如かず。実際に現地に行き、目で見ることが大切」と述べました。

紙参議は「ただちに臨時国会を開くことを求め、領土問題を取り上げていく」と答えました。

根室漁業協同組合

根室漁協では相川専務と小笠原総務部長が対応してくださいました。

相川氏は「日本とロシアとの〝距離感〟が、以前よりも遠くなったような気がする」と、現在の対ロ漁業について述べました。昨年末のタコ漁船の〝だ捕〟についても「根室の安全操業では初めて。日帰りが前提なので薬なども携帯しておらず、最悪の場合死者が出てもおかしくない状況だった」と指摘。

根室の漁業の現状については、「ロシア２００カイリ内のサケマス流し網漁業が禁止され、去年はサンマも不漁。漁船から沿岸にシフトした漁業者もいるが、資源が不足することも懸念される」と述べました。

コロナ禍に関しては、漁業者からの持続化給付金についての相談が同組合に約50件あったそうです。ただし、サンマやコンブ漁業者は、漁期の関係から申請ができないとのこと。

国に対しては、養殖施設の充実、漁船への支援などの要望が出されるとともに、「共同経済活動がどうなっているのか、まったく見えてこない」との声も。

紙参議は要望をしっかりと国に訴えていくと述べ、畠山前衆議も国会と連携して取り組んでいくと答えました。

根室市行政

根室市役所では北方領土対策部と市立根室病院からお話を聞きました。また、石垣市長を表敬訪問しました。

北方領土対策部からは織田部長と谷内対策監が対応、市立病院からは神山事務長が対応し、それぞれの状況について説明を受けました。